

聖書日課 『からし種』 2020.10.4-10.11

<p><b>10月4日</b> <b>(日)</b></p> <p>詩編 58編</p>	<p>「人は言う。『神に従う人は必ず実を結ぶ。神はいます。神はこの地を裁かれる』(12節)。「滅ぼさないでください」に合わせて(1節)とどんな曲調で賛美してほしいのかが記されている。同じ曲で異なる歌詞を載せて賛美することは今の私たちにも受け継がれている。神に献げる自由な賛美を見る。私たちもその賛美に心を寄せて主告白ができますように。</p>
<p><b>5日</b> <b>(月)</b></p> <p>詩編 59編</p>	<p>「わたしは御力をたたえて歌をささげ／朝には、あなたの慈しみを喜び歌います。あなたはわたしの岩の塔、苦難の日の逃れ場」(17節)。王サウルの力の前では主に助けを叫ぶダビデ。苦しみながらも、神への賛美、主告白を続けるダビデの姿から励ましを受ける。経済や人を神とする世界の中でもわたしたちが神賛美を選び取ることができますように。</p>
<p><b>6日</b> <b>(火)</b></p> <p>詩編 60編</p>	<p>「どうか我らを助け、敵からお救いください。人間の与える救いはむなししいものです」(13節)。人の与える救いは虚しいと告白するダビデ。人間が作り出す救いとはなんだろうか。力による支配、力による平和は見せかけの平和。十字架のイエスキリストが示された主の平和を祈り求め、その平和の実現のためにわたしたちは何ができるだろうか。</p>
<p><b>7日</b> <b>(水)</b></p> <p>詩編 61編</p>	<p>「あなたは常にわたしの避けどころ。敵に対する力強い塔となってくださいます。あなたの幕屋にわたしはとこしえに宿り、あなたの翼を避けどころとして隠れます」(4～5節)。主の前では平安(安全)が約束される。主の護りが遠く、主から突き放されたように感じたとしても、主は常に避けどころとしてわたしたちの歩みに伴ってくださっている。</p>

メール配信登録メール [senfikorn.obc@gmail.com](mailto:senfikorn.obc@gmail.com)

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2020.10.4-10.11

<p><b>8日</b> <b>(木)</b></p> <p>詩編 62編</p>	<p>「わたしの魂は沈黙して、ただ神に向かう。神にわたしの救いはある。神こそ、わたしの岩、わたしの救い、砦の塔。わたしは決して動揺しない」(2～3節)。イスラエルの神は、戦いや豊穡のための神ではなく、わたしたちの歩みに寄り添い、共に生きて下さる神。イエス・キリストが指し示して下さる揺るぐことのない主の真理に信頼して歩むことができますように。</p>
<p><b>9日</b> <b>(金)</b></p> <p>詩編 63編</p>	<p>「あなたの慈しみは命にもまさる恵み。わたしの唇はあなたをほめたたえます。命のある限り、あなたをたたえ／手を高くあげ、御名によって祈ります」(4～5節)。主なる神への礼拝は礼拝堂で日曜日に行われるものだけではなく、荒れ野でも、自宅でも、公園でも、わたしたちの生の全領域で神の御名を賛美し、祈りをささげることができる。</p>
<p><b>10日</b> <b>(土)</b></p> <p>詩編 64編</p>	<p>「人は皆、恐れて神の働きを認め／御業に目覚めるでしょう。主に従う人は主を避けどころとし、喜び祝い／心のまっすぐな人は皆、主によって誇ります。」(10～11節)。主の偉大さを体験した人は、主の御業を知るようになる。そして、主に従う者とされ、主の働きの同労者として主が呼び集めて下さる。主の平和の業に仕える喜びを共に分かち合って。</p>
<p><b>11日</b> <b>(日)</b></p> <p>詩編 65編</p>	<p>「沈黙してあなたに向かい、賛美をささげます」(2節)、「罪の数々がわたしを圧倒します。背いたわたしたちをあなたは贖ってくださいます」(4節)。豊かな実りの季節に響く喜びの歌を聴きながら、詩人は神の前に黙って賛美をささげている。自らの罪の数々を贖ってくださった神の深い慈しみを覚えながら。沈黙こそ神の慈しみにふさわしい賛美なのかもしれない。</p>